

電気通信大学 平成21年度シラバス

授業科目名	文化干涉論		
英文授業科目名	Cultural Interference and Interaction		
開講年度	2009年度	開講年次	3年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	三浦 清美		
居室	東1-508		

公開E-Mail	授業関連Webページ
miura@bunka.uec.ac.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>主題： 「物語」は、「むかしむかしあるところに」という常套的な表現に明らかに現われているように、すでに過ぎ去った事柄、すなわち、過去を語るものでありながら、実は人間の現在と未来を映し出す鏡となるものである。君たちが生きていくとき、現在自分がどのような状況に置かれているのかわからず、途方にくれることもあるだろう。明日の自分がどうなってしまうか、不安にさいなまれるときもあるかもしれない。そんなとき人は「物語」によって、現在自分がおかれた状況を押し量ったり、未来のことに見通しをつけたりするるのである。（物語の登場人物の）何某は、そのときこのように考えてこういう行動をしてこういう結果になったとか、こういう行動を取らなかったのでああいうことになったとか、人はそんなふう考えているものである。人は「物語」によって現在と未来を考える。</p> <p>この授業では、そんな「物語」をできるだけ多く読みたい。「物語」とカッコつきで書いてきたけれども、そのなかには、主なものとして、神話、伝説・説話、おとぎ話が含まれていると考えていただきたい。人の噂話なども、「物語」のうちに含めてもよいかもしれないが、テキストを読むという授業の性格にはなじまないのととりあえずは除外しておく。この授業担当教員の専門はロシアの神話、伝説、おとぎ話であるが、この授業は大きく枠を取って、日本の神話、伝説、物語や旧約聖書のフォークロアなども視野に入れる。ユング心理学の分析家フォン・フランツのおとぎ話に関する分析方法を援用しつつ日本語（訳）のテキストを読みたいと考えている。</p> <p>達成目標：これから君たちが生きていくうえで精神的な糧になる「物語」を多く読むことにより、太古から伝えられた人間の生きる知恵に触れたい。</p>
--

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>特になし。</p>

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

特になし。

【教科書等】

教科書：三浦佑之、口語訳古事記 神代篇（文春文庫）
参考書：三浦佑之、古事記講義（文春文庫）
聖書（新共同訳）、日本聖書協会
ブルフィンチ、ギリシア・ローマ神話、岩波文庫など

【授業内容とその進め方】

授業内容：

- 第1週 「物語とは何か」概論
- 第2週 「世界創造の物語」としての古事記
- 第3 - 5週 『古事記』神世篇を読むI
- 第6週 エスキモーの世界創造の神話との比較
- 第7 - 8週 ギリシア神話との比較 - オルフェウスの神話との比較など -
- 第9 - 11週 旧約聖書『創世記』との比較
- 第12 - 14週 『古事記』神世篇を読むII
- 第15週 まとめ

進め方：教科書『口語訳古事記 神世篇』を丹念に読んでゆく。出席した学生にテキストを音読してもらう。音読しているところを、担当教員がときどき止めて、テキストに関するコメントをつける。学生諸君は、テキストがどのような広がりをもっているのかをゆっくり味わっていただきたい。関連するところでは、随時比較の対象となりうる地域・時代が異なったほかのテキストを資料として配布し、それをまた同様に読んでいきたい。テキストの広がりを受け止めるということが大切である。

【授業時間外の学習（予習・復習等）】

電車の行き帰りでもよいから、教科書や配布した資料を、読み物としてきちんと読んでおくこと。授業で担当教員が指摘したこと踏まえて、もう一度テキストにあたること。それが予習であり、復習である。

電気通信大学 平成21年度シラバス

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価基準：学期末のレポート70%、随時おこなう授業への感想20%、出席点10%と理解していただきたい。

出席は重視するが、ただ席に座っていればそれでよいというものではない。授業に積極的に参画することが重要である。具体的には、あたってときにはきちんと読む、ほかの人の音読のさいにはしっかりテキストを追ってゆくということである。

居眠りは厳禁である。あまり派手に眠っている学生諸君は授業から退出してもらおう。こちら面白い授業になるようにできる限り努力をする。

学期末のレポートは、読んだ物語に関して面白かった点をあげ、なぜ面白いと思ったのかをきちんとした日本語で表現することが要求される。大事な点は、1.自分の考えをしっかりと持っているか、2.それをきちんとした日本語で表現できているか、以上の2点である。

インターネットを資料として使う場合について特別に注意を喚起したい。インターネットを資料として使うことを禁止していない。資料として、引用を明記して使うことは原則として許される。ただし、いわゆるコピペは厳禁である。コピペはかんたんにわかる。あやしいと思ったフレーズを検索にかければ一発でわかる。その場合は、そのほかの評価がどんなによくても単位を与えることはできない。きちんと、内容が自分の身体をとってアウトプットされていることが必要である。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、電話や電子メールなどで事前にアポイントを取ること。
火曜日 14:30～16:30

【学生へのメッセージ】

自分なりの問いをもちつづけることが大切です。

【その他】

特になし。